

障害児の食生活指導の要点に関する研究  
(分担研究：乳幼児期の栄養・食生活の在り方に関する研究)

協力研究者：政安静子

要 約：

心身障害児の栄養・食生活に関する研究については基礎的な栄養所要量に対する検討が余りされていない。したがって、心身障害児の食生活指導を行うためには、身体計測、並びにエネルギー消費量の把握による栄養評価が必要になる。心身障害児は障害の部位やその程度によって体格や身体活動が大きく異なる、特に身体的な側面からみても、同一暦年齢の健常児と比較した場合、低身長・低体重の児が多いとされており、栄養評価の基準を設定することが困難である。また、患児の身体活動や摂食生力にも大きな差があることが問題になっている。本研究ではこれらの状況を考慮した食生活指導マニュアルの在り方について研究する。

見出し語：心身障害児、栄養所要量、栄養評価、食生活指導マニュアル

研究方法：

全国の公立・民立の障害児施設に入所または通所している児童は、重症心身障害児を始め障害の程度が大きくことなる。身体計測及び栄養所要量の設定並びに栄養評価の方法について、各施設に食生活状況調査を主体とするアンケートを配り基礎的な調査を行

---

茨城県立コロニーあすなろ

う。また、自施設における障害児の栄養評価例の取りまとめを行い、一般的な評価指針のポイントについての検討を行う。一方、国立西別府病院において平松らが実施した調査研究について栄養士の立場からの意見交換を行い摂食障害の有無を考慮した障害児の食生活指導についてのマニユア

ル作成に寄与する。

#### 6) 研究結果:

本年は年度の途中から研究協力者として参加を要請され研究開始が遅れたが、自施設において実施している身体測定並びにエネルギー代謝測定結果をもとに栄養所要量を設定し、それに見合った食事量を供して栄養評価を行う作業を実施中である。この検討では低栄養や過剰栄養状態を防ぎ、体格の保持を考慮して行ない期待する結果が得られている。また、全国の関連施設に身体計測及び栄養所要量の設定並びに栄養評価の方法に対する調査を依頼する準備を行っている。

#### 考 察:

心身障害児の食生活指導を行うためには、適切な栄養評価をすることが大

切である。この目的を達成するには多くの症例を累積し、評価のポイントについての検討を重ねることが必要になってくる。今後、実測したエネルギー代謝を参考にして栄養評価をし、食事指導を行い、その経過を集積して栄養評価や指導方法についての研究と一般的な評価指針のマニュアル作成をすることは有効であると考えられる。

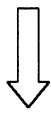
脳性小児麻痺による摂食障害児の栄養評価を行い、食事指導により低栄養を防ぎ、体格の保持をした。

#### 文 献:

- 1) 厚生省保健医療局健康栄養増進課: 第五次改定日本人の栄養所量, pp26-68(1994)
- 2) 高橋徹三、中島晋、浅野勝美、政安静子、他: 栄養学雑誌, 42, 281-286 (1984)



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要 約:

心身障害児の栄養・食生活に関する研究については基礎的な栄養所要量に対する検討が  
余りされていない。したがって、心身障害児の食生活指導を行うためには、身体計測、並  
びにエネルギー消費量の把握による栄養評価が必要になる。心身障害児は障害の部位やそ  
の程度によって体格や身体活動が大きく異なる、特に身体的な側面からみても、同一暦年  
齢の健常児と比較した場合、低身長・低体重の児が多いとされており、栄養評価の基準を  
設定することが困難である。また、患児の身体活動や摂食生力にも大きな差があることが  
問題になっている。本研究ではこれらの状況を考慮した食生活指導マニュアルの在り方に  
ついて研究する。